

# 行政調査報告

◎委員長 ○副委員長

## 総務委員会

(○)小島 倫明、○野々川嘉則、西尾 貞臣、小川真由美、安江美代子、  
河内 伸一、橋本 哲也(欠席)、玉井 宰、澤田 勝巳)

5月9日(木) 熊本県宇城市

RPAを活用した窓口業務改革

業務の生産性・品質向上を目指す

### 目的・理由

煩雑な業務の改革としてRPA(※1)が活用され始めており、その導入目的や活用事例等を調査し、業務改善の提言に関する知見を得るため。

### 視察項目概要

#### ●導入目的

定型業務にRPAを適用することで、定型業務作業時間をゼロにし、その空いた時間と人員を付加価値の高い業務等へ再配分を行う。

#### ●活用事例

業務の棚卸・見える化(シート化)し、そこから抽出。臨時・非常勤職員給与、債権者・口座登録、後期高齢者医療、住民異動届入力等。

### 意見・考察

定型業務から解放され、業務の生産性向上、品質向上を図るため、全庁的に意識の統一が必要。主導担当を設け、まずは業務の棚卸(業務の見える化)の実施が必要。



5月10日(金) 福岡県中間市

空き家バンク制度

空き家の有効活用による移住の促進

### 目的・理由

本市では空家等対策協議会を設置し、対策を推進しているが、今後の事業展開に対して政策提言を行うための知見を得るため。

### 視察項目概要

#### ●導入目的

賃貸・売買を希望する所有者から登録の申し込みを受け付け、空き地や空き家をホームページに掲載し、空き地や空き家の売買を希望する人に情報を提供する制度。空き家を有効に活用して若年世帯・子育て世帯の移住を促進し、転入人口の増加から地域の活性化に繋げたいという目的のために導入。

### 意見・考察

コンパクトな市なら良いが、本市の規模では難しいかもしれない。何か方法がないか今後の課題である。



# 福祉厚生委員会

(◎)小沢 国大、○船橋 厚、山田美代子、熊澤 一敏、高野 達夫、佐藤 大輔、長田 淳、加藤 晶子)

5月9日(木) 東京都西東京市

フレイルチェックの運営

## 健康寿命の延伸に向けた取組

### 目的・理由

高齢化課題先進国から高齢化課題解決先進国を目指すためには、自治体ごとに健康寿命を延伸することが大切であり、市民運営型のフレイル(※)チェックの運用を学ぶため。

### 視察項目概要

#### ●導入の経緯

市民のニーズ調査を行い「介護が必須な状態にならないための予防に関する事業」が多かったため。

#### ●実施状況

フレイル予防講演会やフレイルサポーター育成研修を行い、フレイルサポーターとなった市民が市内各所で活動を展開。

### 意見・考察

フレイル予防活動を通じ、社会参加をすることで、健康寿命を延ばすことに繋がっていた。

本市では、様々な活動団体がある中で、効果的に行っているよう、検討していく必要性を感じた。



5月10日(金) 神奈川県横浜市

がん検診センター

## 幅広い世代のがん治療を目指して

### 目的・理由

小牧市民病院は、がん診療の地域拠点病院であり、がん医療の先進的な取り組みを行っている横浜市立市民病院に学ぶべきことがあるため。

### 視察項目概要

#### ●がん検診センターの設立の経緯

がん診療体制の強化及び整備を進め、昭和56年6月に横浜市立市民病院に設置、一貫した検査を実施している。

#### ●今後の課題

子育て世代等が受診しやすいよう、優先的に問診・検査を行い、検診時間を短縮する等、利便性の向上を図る。

### 意見・考察

近年増加している若年層世帯の受診を促す取り組み状況について、学ぶことができた。

本市においても、幅広い世代のがんの早期発見・

早期治療が可能となる効果的な手段を模索していく必要性を感じた。



# 文教建設委員会

(◎)谷田員将典、○木村 哲也、船引 嘉明、稲垣美佐代、稲垣 衿子、稲垣 守、鈴木 英治、舟橋 秀和)

5月8日(水) 兵庫県神戸市

三宮駅周辺地区の再整備

## クロススクエアに人のにぎわいを

### 目的・理由

駅前整備事業の先行事例、震災からの復興再整備事業の参考として。

### 視察項目概要

#### ●「えきまち空間」基本計画

神戸都心の将来の姿「将来ビジョン」・三宮周辺地区「再整備基本構想」をもとに平成30年9月策定。象徴となる新しい駅前空間の整備計画。

#### ●三宮クロススクエア

計画の核となる構想。6駅の集まる中心市街地への車流入を制限、回遊性の高いにぎわいのある空間に。

#### ●今後の取組

空間・交通・景観の観点から、空間づくりのルールや利活用を考え、公共事業を計画・実施。民間事業の参画を促進。

### 意見・考察

本計画は、市民との対話の中で計画を策定したとのこと。本市も同様に組み、駅前の空間づくりが進むことに期待する。



5月9日(木) 大阪府箕面市

ICT教育

## タブレットを活用した教育を実践

### 目的・理由

箕面市はICT教育を推進してきた実績があり、先行事例としてふさわしいと思われるため。

### 視察項目概要

#### ●導入経緯と実施状況

平成21年度から導入。平成30年度は小4～小6の全児童と教員にタブレットを配付。生徒からは授業が分かりやすくなった、教員からは適切な指導が可能になったとの声。

#### ●費用・課題・研修

導入費用が約6億5000万円、年間維持費は約8000万円。システムに不具合が生じると、全てのタブレットが使用できなくなることもある。情報教育部会を月1回開いたり、モラル研修会等を実施したりしている。

### 意見・考察

児童が集中して授業に取り組んでいた。全児童・生徒へのタブレット配付は費用負担が大きいく、検討が必要と思われる。

